



ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第339号

神の計画・聖霊の働き マヘル神父

約2年前にオブレート会の仲間のジャック・ディリー神父から大変な話がありました。彼は健康診断で筋ジストロフィーにかかっていることが判りました。この病気は段々と筋肉が弱る病気です。しかし、最後まで意識ははっきりとしています。ディリー神父は、上智大学の先生と手話の先生をしていて、日本語の手話とアメリカ(英語)の手話と両方できました。それで、上智大学で英語と手話を教えていました。

私は、50年前に東京のオブレート会の神学校で出逢いました。

ディリー神父は神学生の時代から手話を習い、御殿場のハンセン病の病院でボランティア活動をしていました。数年の間に沢山の患者と友人になりました。その頃、筑波大学は聾話者の部門を創りました。そして、ディリー神父様に先生になって欲しいと頼みましたので、ディリー神父は1～2年間位勤めましたが、その後、上智大学に戻り数年間講師として勤めました。退職した後も臨時講師として勤めました。

上智大学では人気のある先生で、各地で手話のミサと黙想会をされました。

御殿場病院のボランティアも続けましたが、病気が進行して活動が出来なくなりました。そのあと長い闘病生活になりました。

彼の家へ、ヘルパーさんに来てもらって頑張りましたが、最後は彼が良く通った御殿場病院に入院することになりました。

今年の5月にオブレート会の5人の神父が一緒にお見舞いに行きました。丁度その時アメリカから彼の姪と甥が来ました。私達が一緒に部屋に入りディリー神父はとても喜びました。動けなくなったけどまだユーモアのセンスをもって話すことが出来たのです。

短い時間でしたが、思ったより悲しく失望するより希望的な思い出話が出来、恵み一杯の訪問でした。

私はディリー神父の姪から「ジャック叔父と昔から一緒にいつもディリー家で祈っている祈りをしてもいいですか」と尋ねられました。部屋にいる皆も承諾し、三人でこの祈りをしました。

家族の恵み

「天におられる私達の父よ、食べ物と住まいと、この家族を有難うございます。

教皇フランシスコ	2面
大人の日曜学校〈続〉	3面
小教区委員会・今月の聖人	4面
北九州平和の集い	5・6面
教会学校のページ	7面
駐車場基金の経緯	7面
お知らせ・幼稚園からのお知らせ	8面

家族とは、その中で育ち、出かけ、又戻ることが出来る場です。

喜びの時も悲しい時も互いに助け合う愛のつながりです。

あなたの恵みの内に、この家族がいつも心と思いを合わせて一人一人の人生と人格を生きる力となりますように。」

部屋にいる皆さんが神の拝領を体験し聖霊な働きを感じました。

ディリー神父は数週間後に亡くなられま

したが、彼の愛した御殿場で、上智大学の親しい神父や病院のシスターやハンセン病の親しい患者、他の患者で音楽を作曲してディスクを送ってくれた友人の曲が流れる中で、ロザリオを唱えながらゆっくりと天に召されました。

聖霊が 70 年以上前から計画されたように、神と人間の愛を囲んでイエス様と出会うことが出来ました。

彼の希望で御殿場にお墓を作りました。

教皇フランシスコ 環境保護の回勅発表

教皇フランシスコは、地球環境の維持・保護への問題意識を、主にカトリック信徒を対象にして、痛切に世界に訴える回勅「ラウダート・シ」を発表しました(6月18日)。下記に、概要を記載します。ここでは主にカトリック新聞に掲載されたものを基本にしましたが、バチカン発信の同ニュースでの同回勅の Overview も参考にした、融合版です。

前文部分 私達、皆の星である地球、この星は、私達と共に生きる兄弟でもあります。この兄弟が今、叫び声を上げています。神様が預けてくださった良いものを、私達人間が、無責任に使っているからです。50年前、ヨハネ23世は、核戦争の危険を感じ、平和の提案を行い、パウロ6世は、人間が何も考えず活動すると環境破壊を生むことを訴えました。技術は役に立ちますが、それを用いるには私達人間の生き方を変える必要もあります。「自分は何が欲しいか」から「神様の世界には何が必要か」へと変わってゆくのです。アッシジのフランシスコは、弱いものを守る人、自然を守る人の模範です。

1章 1. 汚染と気候の変動： 危険なゴミが地球を汚しています。地球が熱を出しています。これを止めるために私達は生き方を変える必要があります。住む場所を変えざるをえない人も増えています。何もしないのは無責任です。 **2. 水の問題：** 水がなくて苦しむ国民があります。特にアフリカです。貧しい人が病気になり、死んでいます。きれいな水を飲むことは、すべての人が持っている一番の権利です。 **3. 生物種の絶滅：** たくさんの生き物がいなくなっています。人間に生き物を絶滅させる権利はありません。多くの地域では、特別の保護が必要です。 **4. 生活の質の悪化：** よい環境の厚遇を受ける人々は限られ、一方で他の人は、よい環境には近づけなくなっています。多くの人が、生活の質が落ち、社会が崩壊して行く傾向があります。

2章：全被造物の保全の責任、**3章：**科学技術への注意等は、次号に掲載します。

大人の日曜学校〈続〉

マヘル神父

先月号では、教区のハンドブック 2015 の中から聖なる読書(レクチオ・デ・ヴィナ)のことについて記載しましたが、今月はミサの奉納金と小斎について皆様と一緒に考えましょう。

教区のハンドブック 2015 の中にミサについて1頁・信徒の心得が記載されております。皆様もよく読んでいて頂きたいと思います。特にこの部分です。

1. 感謝のミサについて

「特定の意向の為に『感謝の祭儀』(ミサ)を捧げる美しい伝統があります。その場合は『ミサ奉納金』を添えて司祭に依頼します。

2. 奉納金の受領

イ. すべての司祭は、特定の意向に従ってミサを司式または共同司式する場合、教会は承認した慣例によって奉納金を受領する事が出来る。同じ日に複数回ミサを司式又は共同司式する場合でも1回のミサ奉納金だけを自己のものとする。日本の司教団の目安としてミサ奉納金の標準額を3000円と決定している。

ロ. 奉納金が僅少であっても、個々の奉納金それぞれの意向の為に個別にミサを捧げなければならない。司祭が何らかの奉納金を受けなくても、特に貧しい信者の意向の為にミサを捧げることは大いに勧められる。

ハ. すべての司祭は、受領したミサ、および捧げたミサを正確に記録しなければならない。

★このことを指導している私(マヘル神父)はこのようにしています。

イ. 信者は毎週日曜日にミサ依頼を出します。

ロ. 私は全部記録します。

ハ. それに従って1回の意向の為に、奉納金3000円迄でミサを捧げます。

奉納金5000円でしたら2回、奉納金10000円でしたら3回ミサを捧げます。

ミサの依頼が、多い時は他の司祭に頼みます。多くの名前を出しますが、日曜日のミサは皆さん(すべての人の為に)のためのミサを捧げています。(何人書いても構いません。)

簡単に言えば、皆さまは今まで通りにミサを捧げて下さっていいのです。私は皆さまの意向を頂いて、上の説明通りに行います。

★もう一つのことについて皆様と考えたいと思います。

小斎について考えましょう。教会では昔から小斎と言う決まりがあります。小斎の時は(教会法)ハンドブック 2015・6～7頁には『償いの日』について書かれています。毎金曜日には小斎を守ります。但し、祭日に当たる場合はこの義務はありません。また信者は自分の判断により、償いの他の形式、特に愛徳の業、信心業、また節制の実行を持ってこれに帰ることが出来るのです。イエズス様の御受難を心合わせて何かの犠牲、特に愛徳の業、信心業、又節制の実行を持ってこれに変える事を考え、行いましょう。

委員会等報告

2015年8月分

8月度小教区委員会

8月2日

1. 前委員会の議事録確認

- ・総会内容の手直しはからしだねに掲載
- ・駐車場献金の廃止、営繕積立の新設はOKを確認
- ・駐車場献金の返金は、次回に継続検討

2. 先月の行事報告

- ・7月20日(日)のファミリーキャンプには34名が参加。準備、お手伝いいただいた皆様ありがとうございました。

3. これからの活動予定

- ・8月9日(日)平和の集い(7名参加予定。昼食後自家用車を乗合せ出発)
- ・9月6日(日)信徒協聖書講座
14時より中村克徳神父様の講和

4. 議題

- ・駐車場献金について
次の手順で取扱いを決めることとした。
1) 提案骨子のまとめ
経緯(献金の生い立ちから現在、返金検討に至る)、今後の取り扱い
2) 意見の集約(説明会にて)
10月25日(日)予定
3) 方針決定(小教区委員会にて)

4) 献金にご協力いただいた方へ手紙を送付して最終確認を行う

小教区委員会では意見の集約方法として、「地区集会を開催」「条件なしに全員に返金」「ある程度(5年?)を遡り、返金」「説明集会を開く」「返金せず、説明会などを経て献金」などの意見が挙がるが、上の内容に結果をまとめた。

- ・教会維持献金について

制度について方向性はOK。だが、「特別な目的だけ使う」「一般の維持費と同等に扱う」など運用に対する意見がでる。

意見集約できず、次回に継続検討となる。

5. 各委員会・地区から

- ・納骨堂利用者集会報告

議事録の報告と次回までに具体的な改定後の規約を提示する

- ・典礼委員会報告

議事録の報告。敬老のお祝い会の日程が違うことを指摘(正しくは9月13日)

- ・子供の貧困を助けるという提案について
時間の関係で趣旨説明に終わる。

2日 聖パウロ(エジプト)修道士

228年ごろー341年ごろ

パウロは、エジプトのデバイスに生まれた。ローマ皇帝デキウスの迫害下に、異教徒である姉の夫の密告を逃れるため、荒野に身を隠した。パウロは、洞くつの中で祈りと苦行の生活を送り、60年もの間、誰にも会うことがなかった。彼のもとに毎日、カラスがパンを運んだという。113歳になったときに、修道生活の父と呼ばれる聖アントニウスから見つけ出されたといわれている。

北九州 平和の集い 2015

8月9日、北九州地区平和の集いが小倉教会で開催され、暑い中多数の人が集い、有意義な時間を過ごすことができました。ここで、主に北九州地区のグループの取り組み（「聞いて下さい、私たちの取り組みを」）を紹介します。（平和講演等については次号に掲載）

「聞いて下さい 私たちの取り組みを」（グループ活動紹介）

（1）震災・南相馬ボランティア 門司教会等、3名の発表

門司教会、平松さん

平松さんは、自身、東日本震災ボランティアに40回ほど行った経験がある方です。その指導力から、北九州の地から2013年3月には8人が、岩手県大船渡、釜石まで行きました。その後3年連続して、10人近い人が福島県の南相馬市に。ここは原発から20km程度で立ち入り禁止区域が設けられていました。居住区域は次第に広がってきましたが、街の南は、さらに困難な場所です。何重にも苦しみつつ住んでいる人と、そういう人たちと繋がりを持つため、被災地に行くことで意義を見出されます。

湯川教会、濱田さん

これまで大槌によく行ったが、去年から福島県の南相馬に行っています。ここでようやく居住が許され帰還できる人の話も聞けます。福島へは軽トラックで僅か16時間で行けます！目的地、原町ベースに近づくと、行くとこ行くとこ、バリケードが張られていて困難が。そこで待っていたら迎えの車が来て、ベースまで連れていって頂きました。到着は、深夜です。



（「平和祈願」における子ども達の奉納）

福島は、学校など復興に向けて除染がなされていました。僕は、南相馬の小高地区で家の片付けをしました。4年間、住民の皆さんは家に帰られてない。そこで荷物が放射能を帯びている。それをトン袋に詰め込む。それを廃棄する。これが仕事の一部です。その他庭木の伐採、草刈りとかさせて頂きました。

僕が何でこういうボランティアをし始めたのか。それはキリストを証しする、そういう思いにかられるから。皆さんも、被災者に向かってなされたと思いますが。祈りとして捉えています。皆さん、一度ボランティアに出かけて頂けると嬉しい。僕の軽トラの助手席はいつも空いていますので、よろしかったらいつでも連れてゆきます（一同笑）。話ベタですが、すいませんでした。

門司教会、石原こうき君（南相馬に同行、この時、小6）・・大道芸披露・・

福島のボランティアについて、平松さん等に誘ってもらいました。ニュースで見ても、震災は身近なものと考えてなかった。実際に、自分で、自分の目で見てみたいと思い参加しま



(参加神父には若手が多かった！)

した。僕は大道芸が趣味なので、色々なところで大道芸を見てもらったり、掃除もしました。大道芸を見て貰って、楽しんでもらえました。

福島に行って、現場を自分の目で見ることになって勉強になったし、震災のことも身近なこととして考えるようになりました。経験させて貰い、感謝しています。

★この後、門田さんの紹介で、石原君に大道芸を、数分間、披露して貰うことに。あまりのうまさに、参加者は驚きました。

(2) 小倉教会 牧山神父 長崎原爆の被曝体験

今日は長崎に原爆が投下された日。私は昭和 16 年 8 月 5 日生まれで、その時 4 歳だった。原爆が落ちたとき、まず、ピカーと強烈な光、そして、巨大な入道雲がむくむくと現れた。同時にうちのタンスは皆、倒れて壊れた。これで何が起こったのか全く解からなかった。あとで、原爆が長崎の松山に落とされたことを知らされた。翌日、母の里、長崎の福田湾の上の、武井という小さな村に疎界。そこで防空壕に行ったら、全身が血だらけ、硫黄の匂いのするのたうち回っている人が居た。原爆に遭って、長崎から連れて来られた。このおじさんはどうして苦しいのか、黙って見つめていた。私の家は、爆心地から 3.8km 離れたところにあり、直撃されることはありませんでした。

一方で、長崎教区の川添神父様も被曝体験者。この方は、原爆が落ちたとき年齢は今で言う高校生。被爆後どうしていいか解からず、爆心地の近くをふらついていた。お腹も空いた。そのとき横たわっている人が、ポケットから乾パンをいくつか取り出して、「お前が喰え。俺はもう喰えん。」と言ってくれた。自分がまもなく死のうとするのに、俺は要らんからお前にやると言われた。その心は衝撃だった。何のために生きているのか。ただ生きるために生きているのか。どこから来て、どこへ行くのか。神父様はそれを考えさせられ、司祭職を目指すようになったということらしいです。川添神父も私も、被爆者の仲間です。大きい声で言われないが、原爆手帳を共に持つもの。たくさん助かることもある。

「今日、平和のために働く人は幸い」とありますが、私たちは、自分の命を一生懸命に生きようとする。小さなことでも工夫し、乗り越えるべく頑張っている。それぞれ違うが、私は、平和のために働くことである。職場で、人との関わりの中で平和を作るために、それぞれが努力している。平和を作ることを新たにしましょうという意味で、そのための有意義な集会かと思っています。

教会学校のページ

夏の集い ファミリーキャンプ

7月20日 教会学校の夏の集い、ファミリーキャンプが行われました。

小さなお子さんから大学生まで15人の子どもたちと、大人19人の合計34名の参加をいただきました。中間の垣生



公園でバーベキューをして昼食をとり、公園では池のこいや亀にエサをあげたり、ボートに乗ったりと楽しい時間を過ごしました。

ご協力いただいた多くの皆様、心より感謝申し

上げます。



「からしだね」(先月8月号)の信徒総会議事録の駐車場関連について、駐車場基金の発足時から詳しい吉岡さん(高須・青葉地区)が、補足説明を寄稿されました。

信徒総会議事録の抜粋：

「質疑：駐車場を利用してない人が、支払いをしているのは、何故か？」

応答：事の発端は、駐車場代から始まった。月500円からスタートした。・・・」

この様に書かれていますが、事実経過を補足説明いたします。

- 1、 駐車場代は 1990 年代半ば、駐車場利用者の受益者負担として、登録制で3カ月2千円（年間8千円）を駐車場代として徴収してきた。（からしだね 118 号掲載）
- 2、 1997 年 4 月の信徒総会で、駐車場基金制度に関する確認および提案がなされた。提案内容は「受益者負担という意味で駐車場使用料、年間8千円は妥当。徴収はこれまで通りとし、登録台数確保のため地区役員が各地区信徒の車両保有を確認し報告する」ことが決められた。幼稚園と共同で駐車場購入に充てる。（からしだね 119 号 1997 年 5 月号、掲載）
- 3、 数年経過し、（早くとも、2000 年 1 月から）、駐車場基金袋一口 500 円の欄が信徒一律に、月例献金袋内に設けられ、以降、駐車場を利用してない人でも、納入ができるようになった。

9月



おしらせ

★特別献金★

北九州平和の集い献金 17、132円
ご協力、ありがとうございました。

★ホームレス炊き出し支援★

日 時：9月11日(金) 10時より
場 所：水巻教会 信徒会館
多数の方のお手伝いをお願いします。

★敬老お祝い会★

日 時：9月20日(日) ミサ後
場 所：水巻教会 信徒会館
今年も敬老のお祝い会をします。お手伝いできる方は、ご協力ください。
また、ミサ中に希望者の方に、病者の秘跡を行います。

★特別寄付★

松山 直様より、ご寄付をいただきました。
山口 一誠様より、ご寄付をいただきました。
ありがとうございました。

人-ひと

【帰天】安らかに！

8月8日

◇松山 保子さん (吉田地区)

8月15日

◇花浦 康蔵さん (中間地区)



水巻聖母幼稚園からのお知らせ

改装工事中は、大変ご迷惑をおかけしました。

おかげさまで、2学期から美しい園舎で過ごすことができます。ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

☆みんななかよく 交通安全教室

日 時：9月9日(水) 10時30分～11時30分

☆入園説明会

日 時：10月1日(木) 10時～

☆大運動会

日 時：10月10日(土)

※お誘い合わせの上、ご来園ください。

これからも、水巻聖母幼稚園をよろしくお願いいたします。

